洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005
展覧会開催

九月二十三日、午前十一時洞爺村国際彫刻ビエンナーレ２００５展覧会が、関係者のテープカットによりオープンしました。

テープカット後には、大賞をはじめ受賞者の皆さんや関係者、村民の皆さんが展覧会場に入り、世界中から集った第一次審査を通過した六十点の秀作をゆっくりと鑑賞していました

また、午前十一時四十分から、洞爺中学校吹奏楽の演奏を合図に、授賞式が行われました。

ビエンナーレ展のテープカットを行う関係者

実施委員長の菊地村長は、「二十カ国六十点の作品の内なる声を感じ取ってくれると幸いです。芸術に親しむ村として将来の可能性を秘めた子どもたちの作品もロビーに展示しており、鑑賞していただきたい。」とあいさつしました。

続いて、笹野審査委員長から講評があり、「具象回帰の傾向が見られ具象作品が多く時代を映している。多文化の世界の心を見せてくれていると思います。大賞のトラベラーワールドについては、日本の彫刻家にあの発想は出てこない。ビエンナーレは村のステータスシンボルとして、現在の彫刻の姿をいち早く全国に紹介する仕事をしてきた。新町になっても続いていくということですが当然と思います。」と話されました。

さらに、横内胆振副支庁長、神戸北海道議会議員などから祝辞をいただきました。

その後、受賞者一人ひとりに壇上で賞状等が手渡され、見守る関係者や村民の皆さんから温かい拍手が送られてい

大賞を受賞したキフ・パネッテさん

洞爺村の子どもたちが作成した石の彫刻が並ぶ